

自然との共生、協働、社会参画

～三番瀬と谷津干潟～

千葉県習志野市立第四中学校 大野 肇

1. はじめに

東京湾岸の干潟を時計回りを見ていくと、神奈川県横浜市金沢の野島海岸～東京都多摩川河口干潟～東京港野鳥公園、葛西臨海公園、三枚洲～千葉県三番瀬～行徳鳥獣保護区～谷津干潟～盤洲干潟～富津干潟となっている。東京湾奥部における数少ない干潟・浅海域では古くから海と生物と人々の生活が深く結びついており、魚類をはじめとする海の生物や鳥類の貴重な生息地である。

1950年以降、東京湾の埋め立てが始まり京葉工業地域が建設される。高度経済成長の一方で、急激な開発と行政の無策のため、不法投棄や生活排水・工業排水などが垂れ流しにされ、東京湾でも水質汚濁が一時、深刻な問題となった。

現在、三番瀬と谷津干潟が東京湾の「ゆりかご」「野鳥の楽園」とまで形容されるようになったのは、なぜだろうか。

2. 三番瀬（さんばんぜ）と谷津干潟

三番瀬は約1800haの干潟・浅海域（浦安市、市川市、船橋市、習志野市）で、沖へ順に高瀬、二番瀬、三番瀬と名づけられたとする説がある。昔から魚類をはじめとする海の生物や鳥類の貴重な生息地であり、環境省が選定する「日本の重要湿地500」（2001年）に選定された。

谷津干潟は東京湾の最奥部に残された約40haの干潟である。1988年に国設鳥獣保護区特別保護地区に指定された。ここには、ゴカイ・貝・カニ・魚そして水鳥などたくさんの生き物たちが生息している。とくに、シベリアなどの北の国と東南アジアなどの南の国を行き来する旅鳥の中継地としてたいへん重要な場所である。干潟周辺は自然生態観察公園として、周囲に約3.5kmの観察コースや「谷津干潟自然観察センター」が整備され、野鳥観察が気軽にできる。1993年に「ラムサール条



「中学校社会科地図 初訂版」p.99～100

約」の登録湿地となった。

3. 自然環境の再生保全～協働から社会参画へ～

三番瀬はさらなる埋め立てが計画されていたが、残された自然を、次の世代へと引き継ぐため、千葉県は計画をいったん白紙に戻し、日本ではほとんど例のない公共事業中止後の計画づくりを情報公開と住民参加のもとで進めた。地域住民、漁業者、NPOなどが一緒になって議論を重ね、自然環境の保全と再生をめざす「千葉県三番瀬再生計画」（2007年）を策定した。この計画に基づき三番瀬の自然環境の再生・保全と地域住民が親しめる海の再生をめざして各種再生事業が進められている。

なぜ、谷津干潟は保存されたのだろうか？ 戦前に内務省が運河建設のために買い上げた土地で、戦後は大蔵省所有になっていた。県は大蔵省に対し払い下げを強く要求した。干潟に捨てられた大量のゴミのせいで、風が吹くと悪臭が広範囲に広がっていたため、習志野市はもちろん、市民も埋め立てに賛成していた。

1974年、森田三郎氏がふるさとの海“ふかんど*”を残したいと、谷津干潟でのごみ拾いを開始。紆余曲折の末、彼の情熱は地域住民、県や国を動かし、現在に至る。

ラムサール条約では「賢明な利用(Wise Use)」を提唱している。賢明な利用とは、生態系を維持しつつも、人々の交流や情報の交換、普及啓発活動などを進めることである。三番瀬と谷津干潟の事例を、自然と人間の共生、協働、参加から参画へのケースとして環境学習に活用したい。

*干潮でも、そこだけ海水が残る深い場所。